

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	(掲 載 号)
学術集会・講習会		
2002年7月24日(水)～26日(金)第88回醸造調味食品セミナー(東京・(財)日本醸造協会)[368]		
25日(木)～27日(土)	第32回新潟神経学夏期セミナー(新潟市・新潟大学)[366]	
26日(金)	亜熱帯植物の生殖形態実習「マングローブ植物の受粉メカニズム」(沖縄県・琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所)[367]	
26日(金)～28日(日)	平成14年度野外生態実習「身近な気象の調べ方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)[366]	
27日(土)～28日(日)	日本地衣学会第1回大会・設立記念シンポジウム(神戸市・神戸薬科大学)[365]	
29日(月)～30日(火)	第20回日本植物細胞分子生物学会大会・シンポジウム(奈良市・帝塚山大学, 奈良市西部会館市民ホール)[367]	
8月1日(木)～3日(土)日本蘚苔類学会第31回大会(石川県・「小松ドーム・集会場」)[363]		
1日(木)～3日(土)	日本下垂体研究会第17回学術集会(東京・東京農工大学農学部)[367]	
2日(金)～4日(日)	平成14年度野外生態実習「水生昆虫の調べ方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)[366]	
2日(金)～5日(月)	日本進化学会第4回東京大会(東京・中央大学理工学部後楽園キャンパス)[365]	
3日(土)	第33回脳の医学・生物学会研究会(愛知県・国立長寿医療研究センター)[366]	
6日(火)～8日(木)	第27回組織細胞化学講習会ーポストゲノム時代のコアテクニクー組織細胞化学の原理から最先端の実験までー(前橋市・群馬県民会館)[366]	
9日(金)	亜熱帯植物の生殖形態実習「ウミショウブの受粉メカニズム」(沖縄県・琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所)[367]	
23日(金)	亜熱帯植物の生殖形態実習「ソテツの受精メカニズム」(沖縄県・琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所)[367]	
23日(金)～24日(土)第11回アポトーシス研究会研究集談会(横浜市・鶴見大学会館)[368]		
23日(金)～25日(日)	平成14年度野外生態実習「植物群落の分け方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)[366]	
24日(土)～25日(日)日本蜘蛛学会第34回大会・総会(鹿児島県・加音(かのん)ホール)[368]		
26日(月)～28日(水)	日本比較免疫学会第14回学術集会(名古屋市・名古屋ガーデンパレス)[367]	
26日(月)～28日(水)	Invertebrate 神経研究会2002(山梨県・東海大学山中湖セミナーハウス)[367]	
31日(土)	平成14年度自然観察会「鳴く虫」(東京都・国立科学博物館附属自然教育園)[367]	
9月12日(木)～14日(土)第27回日本医用マスのスペクトル学会年会(久留米市・久留米大学筑水会館)[361]		
13日(金)	第52回科学講演会「光をあやつる・光をつかむ～光とナノサイエンスが拓く新しい世界～」(東京都・有楽町朝日ホール)[368]	

編集委員会からのお知らせ 生物科学ニュースに原稿をお送り下さる場合は、テキストファイル(3.5インチフロッピーディスク)の郵送もしくは動物学会(ny02-zsj@t3.rim.or.jp)または植物学会(bsj@ma.kcom.ne.jp)気付の電子メールとプリントアウトしたものを、「ニュース原稿」と明記の上、生物科学ニュース編集委員会宛にお送り下さい。書式などは生物科学ニュース最新号をご参照下さい。今年度の掲載原稿の締切日(必着)は巻末に掲載してあります。

21日(土)～22日(日)第3回応用物理学会教育シンポジウム(2002年)―技術立国日本の危機を救う科学教育とは?―(東京都・学習院大学百周年記念館大講堂)〔368〕

21日(土)～23日(月)日本植物学会第66回大会(京都・京都大学理学部・農学部)〔364〕

24日(火)～27日(金)日本動物学会第73回大会(金沢市・金沢大学角間キャンパス)〔361〕〔363〕

10月2日(水)～5日(土)第15回内藤コンファレンス「難病の分子生物学〔Ⅲ〕」(神奈川県・湘南国際村センター)〔366〕

11日(金)～13日(日)2002年度日本魚類学会年会(松本市・信州大学松本キャンパス)〔367〕

11日(金)～13日(日)植物微生物研究会第12回研究交流会(千葉県・かずさアーク)〔367〕

12日(土) 第19回(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団公開シンポジウム「変貌する微生物学―ゲノムから見た微生物の可能性とその魅力―」(東京・経団連ホール)〔368〕

18日(金) 酵素工学研究会第48回講演会(東京・東京大学「山上会館」)〔368〕

11月2日(土)～4日(月)平成14年度野外生態実習「自然教育教材の作り方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)〔366〕

国際会議

2002年7月19日(金)～24日(水)Algae 2002(つくば市・独立行政法人産業技術総合研究所共用講堂)〔361〕

28日(日)～8月3日(土)第14回国際社会性昆虫学会議(14th International Congress of IUSSI)(札幌市・北海道大学構内)〔359〕

8月11日(日)～18日(日)第8回国際生態学会議(VIII INTECOL: International Congress of Ecology)(韓国・ソウル市 Convention & Exhibition Center (COEX))〔361〕

10月7日(月)～11日(金)INMARTECH 2002(神奈川県・海洋科学技術センター(JAMSTEC)横須賀本部)〔368〕

12月16日(月)～18日(水)青色光生物効果Ⅳ, 2002年(The Blue Light SyndromeⅣ)(岡崎市・岡崎コンファレンスセンター)〔368〕

2003年3月17日(月)～21日(金)国際シンポジウム BIO-LOGGING SCIENCE(東京・国立極地研究所)〔368〕

公 募 (求人関係は除く)

2002年8月16日(金) (財)日本証券奨学財団平成14年度研究調査助成〔367〕

20日(火) 日本植物形態学会 3 賞〔367〕

30日(金) 2002年度朝日賞〔368〕

31日(土) 第14回加藤記念国際交流助成(後期)〔364〕

31日(土) 2002年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」〔365〕

9月1日(日) 平成14年度(第11回)藤原ナチュラリストリー振興財団学術研究助成〔366〕

20日(金) 第19回井上学術賞

第19回井上研究奨励賞

第6回井上フェロー〔365〕

20日(金) 第6回尾瀬賞〔366〕

30日(月) 平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞〔368〕

10月10日(木) 第43回(平成14年度)東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成〔368〕

11月30日(土) 2003年度「女性科学者に明るい未来をの会」猿橋賞および研究奨励賞〔368〕

12月10日(火) 第41回(平成14年度)下中科学研究助成金〔365〕〔368〕

12月31日(火) 平成14年度風戸研究奨励金(研究費助成)〔368〕

2003年4月30日(水) 2003年度「女性科学者に明るい未来をの会」研究奨励賞〔368〕

(社)日本植物学会、(社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

E-mail bsj@ma.kcom.ne.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

E-mail ny02-zsj@t3.rim.or.jp

両学会共通 FAX 専用 03-3814-5352

学術集会

● **第11回アポトーシス研究会研究集談会**が、8月23日(金)～24日(土)に、鶴見大学会館(横浜市鶴見区豊岡町3-18)で開かれます。内容は次のとおりです。

8月23日：一般講演，特別講演(東京医科歯科大・一條秀憲)／24日：一般講演

参加費は会員2,000円，非会員3,000円です。参加費は集談会当日受け付けます。

【問合先】 230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 第11回アポトーシス研究会研究集談会 世話人 佐々木史江(鶴見大学歯学部生物学教室) TEL 045-580-8465または8467 FAX 045-573-9599 E-mail biology@tsurumi-u.ac.jp 発表申し込みはアポトーシス研究会事務局(261-8502 千葉市美浜区真砂1-2-2 東京歯科大学 生化学講座内 TEL 043-270-3752 E-mail apoptosis@tdc.ac.jp ホームページ <http://www.tdc.ac.jp/soc/apoptosis>) まで

● **日本蜘蛛学会第34回大会・総会**が、8月24日(土)～25日(日)に、加音(かのん)ホール(鹿児島県始良郡加治木町木田5348-185)で開かれます。日程は次のとおりです。

8月24日：一般講演，総会，市民シンポジウム(クモの文化論)，懇親会／25日：一般講演

内容の詳細は下記に問い合わせてください。

【問合先】 大会事務局：525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学理工学部生物地球科学研究室 吉田真 TEL 077-561-2660 FAX 077-561-2661 E-mail myoshida@se.ritsume.ac.jp

学会事務局：981-8551 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 宮城学院女子大学 一般教育科 生態学研究室内 日本蜘蛛学会庶務幹事 田中一裕 TEL 022-277-6154 FAX 022-277-6186 E-mail tanaka@mgu.ac.jp

● **第52回科学講演会「光をあやつる・光をつかむ～光とナノサイエンスが拓く新しい世界～」**が、9月13日(金)(午後6時～8時)に、有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11階)で開かれます。内容は次のとおりです。

1) 自然に学ぶナノ材料(東京都立大院工・益田秀樹)，
2) 光触媒によるクリーン革命(東大院工・藤嶋 昭)

入場は無料です。予約なしで当日会場先着順(定員630名)です。

【問合先】 279-8555 千葉県浦安市美浜1-8-1 (財)東レ科学振興会 TEL 047-350-6103 FAX 047-350-6082 E-mail JDP00120@nifty.ne.jp ホームページ <http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html>

● **第3回応用物理学会教育シンポジウム(2002年)―技術立国日本の危機を救う科学教育とは?―**が、9月21日(土)～22日(日)に、学習院大学百周年記念館大講堂(東京都豊島区目白1-5-1)(周辺地図は <http://www.gakushuin.ac.jp/mejiro.html> を御覧下さい)で開かれます。内容は次のとおりです。

我が国における科学と技術は、20世紀において日本経済、産業を支える重要な役割を担ってきました。現在、経済及び産業界の構造改革は確実に進行しており将来に対する科学と技術の責任は極めて深く重いものと言わざるをえません。特に明日を担う青年や子供たちに対する科学教育のあり方は我が国の存亡に関わる重大な課題であると認識されます。

本シンポジウムのテーマ「技術立国日本の危機を救う科学教育とは?」は現在 産業界が低迷し将来に不安を抱く中で、ある企業を支えてきた研究者、技術者の分析結果も含め科学教育の在り方を探っていきます。課題は大きく、かつ複雑ですが、テーマとして(1)科学と技術に関する社会の関心度 (2)小，中，高校，大学，大学院における教育課題 (3)求められる人物像 (4)科学教育のあり方(パネル討論)に焦点をあて方向を探って行

きたいと考えております。明るい将来を迎えるための前向きの議論に皆さんふるってご参加ください。

9月21日(午前) テーマ:『なぜ科学教育が必要なのか?』

挨拶:橘 邦英(応用物理学会 教育・公益事業委員会委員長),「現代社会と科学技術リテラシー」(国際基督教大・村上陽一郎),「メディアの役割」(NHK・青木繁),「海外の科学教育:リテラシーとの相関」(笠耐)／(午後) テーマ:『なぜ理科離れが生まれるのか?』「大学の研究教育/実例・問題提起(教科書問題, 実験の必要性)」(阪大・谷口研二),「大学入学前の理科教育」(学習院大・江沢 洋),「大学の基礎教育/リメディアルおよび学生参加の導入教育」(龍谷大・和田隆博),「高校教育, 大学入試, 指導要領(システムの問題)」(麻布学園・増子 寛),「高校の実状と実践例/指導要領とのギャップをどううめられるか?」(学芸大付属高・金城啓一),「小・中・高校教育のシステムとしての問題点(京都大・西村和雄)」,「1日目のまとめ」寺嶋一高(湘南工科大)

9月22日(午前) テーマ:『どうしたら理科好きにできるのかー産業界の明るい未来のためにー』「産業界の分析, 教育界への要望・提言」(NEC・水谷 隆), 現場の技術者教育について,「国研の分析, 要望/トップの人材確保・提言」(元無機材研・木村茂行),「産業と学校教育・提言」(高知工科大・水野博之),「日本における未来の科学教育・提言」(文科省・寺脇 研)／(午後)『日本の未来のための科学教育とは?』パネルディスカッションパネリスト:寺脇 研, 水野博之, 水谷 隆, 岡島茂樹, 平松信康, 増子 寛, 田中一夫
応用物理学会の決意(所信)表明 後藤俊夫(応用物理学会会長)

参加費は無料です。テキストをご希望の方にテキストの別売り(一冊1,000円)を致します。代金は当日お支払いください。懇親会は1日目(9月21日)シンポジウム終了後, 学習院大学内ホワイにて懇親会(希望者のみ参加費3,000円/当日支払い)を開催いたします。定員は400名です。

申込手続きは, E-mail, FAX, ハガキのいずれかにて, ①応用物理学会教育シンポジウム参加申し込み ②参加者氏名③所属先・住所・TEL・FAX・E-mail アドレス ④懇親会参加の有無⑤所属学協会名・会員番号(または非会員である旨) ⑥学生は「学生」と明記の上, 申込んでください。申込締切は9月17日(火)です。定員に余

裕のある場合には, 当日受け付けます。

【申込先・問合せ】 102-0073 東京都千代田区九段北1-12-3 井門九段北ビル5F (社)応用物理学会 第3回教育シンポジウム係 TEL 03-3238-1041 FAX 03-3221-6245 E-mail symp@jsap.or.jp

●第19回(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団公開シンポジウム「変貌する微生物学ーゲノムから見た微生物の可能性とその魅力ー」が, 10月12日(土)(午後1時~6時)に, 経団連ホール(東京都千代田区大手町)で開かれます。内容は次のとおりです。

1)「微生物ゲノム研究の展開」(奈良先端科学技術大学院大学情報科学・小笠原直毅), 2)「The Minimal Genome Concept: Identifying the Genetic Requirements for Cellular Life」(The Institute for Genomic Research, USA・Scott N Peterson), 3)「麹菌のゲノム研究の現状」(東北大院農・五味勝也), 4)「放線菌 *Streptomyces avermitilis* のゲノム解析ー2次代謝産物生産能のゲノムからの理解ー」(北里大北里生命科学研・池田治生), 5)「コリネ型細菌のゲノム育種」(協和発酵工業(株)・池田正人), 6)「Genomes of two food bacteria, *Lactococcus lactis* and *Streptococcus thermophilus*」(Institut National de la Recherche Agronomique, France・Dusko S Ehrlich), 7)「Exploring pathogen biology through genome sequencing」(The Sanger Center, UK・Julian Parkhill)

参加費は無料です。ハガキまたは FAX にて住所・氏名・所属・電話番号を明記のうえ, 下記に申し込んでください。但し, 定員(420名)になり次第締め切ります。申込締切は10月2日(水)です。

【申込先】 194-8533 町田市旭町3-6-6 (財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 TEL 042-725-2576 FAX 042-722-8614

●酵素工学会第48回講演会が, 10月18日(金)に, 東京大学「山上会館」(東京都文京区本郷7-3-1)で開かれます。内容は次のとおりです。

1)細菌のダイオキシン分解系とその利用(東大生物工学セ・野尻秀昭, 大森俊雄), 2)マイクロ流体デバイスを用いた酵素反応とその応用(東大院工・関 実), 3)ペプチドアミロイドの形成と阻害(東工大生命理工・三原久和), 4)タンパク質・酵素への新たなアプローチーゲノム情報利用の可能性(独立法人産総研・

河原林 裕), 5) LAMP 法の開発と応用 (栄研化学・小島 禎), 6) バイオ特許の取得と活用 (大野総合法律事務所・田中玲子), 7) 産学技術移転と CASTI の現状 (CASTI・高田 仁)

参加費は, 会員無料, 非会員2,000円 (学生1,000円), 懇親会費は3,000円 (学生無料) です. 詳細は下記に問い合わせてください.

【問合先】 606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻発酵生理学研究室内 酵素工学研究会事務局 TEL&FAX 075-753-6462 E-mail enzyme@adm.kais.kyoto-u.ac.jp

講 習 会

● **第88回醸造調味食品セミナー**が, 7月24日(水)~26日(金)に, (財)日本醸造協会 (東京都北区滝野川2-6-30) で開かれます. 内容は次のとおりです.

【醤油】24日(水) 1) 醤油業界の諸問題 (日本醤油協会・知久雅行), 2) 醤油製造の基本技術 (日本醤油研・勝田修支), 3) 醤油麹菌の培養条件と酵素生産 (日本醤油研・中台忠信), 4) 醤油工場の廃棄物対策と有効利用の実態 (福岡県醤油醸造協同組合・野田義治)

【共通】25日(木) 5) 有機農産物加工食品の認証制度と特定 JAS (日本オーガニック検査員協会・水野葉子), 6) 流通からみた食品の現在とこれから ((株)カスミ・神林彰夫), 7) アルコールを利用した食品の保存 (都立食品技術セ・宮尾茂雄), 8) HACCP 手法を取り入れた醸造設備 (永田醸造機械(株)・伊藤秀明)

【味噌】26日(金) 9) 味噌業界の諸問題 ―表示を中心として― ((社)中央味噌研・藤波博子), 10) 味噌醸造の基本技術 ((社)中央味噌研・毛利光之), 11) 超低食塩味噌の開発と用途利用 (新潟県農業総合研・渡辺聡), 12) 防湧性を高めた味噌酵母の開発と利用 (長野県食品工業試験場・吉川茂利)

定員は, 味噌の部30名・醤油の部30名で, 定員になり次第締め切ります. 参加の詳細は下記に問い合わせください.

【申込先】 114-0023 東京都北区滝野川2-6-30 (財)日本醸造協会 TEL 03-3910-3853 FAX 03-3910-3748

国際会議

● **INMARTECH 2002**が, 10月7日(月)~11日(金)に,

海洋科学技術センター (JAMSTEC) 横須賀本部 (神奈川県横須賀市夏島町2-15) で開かれます.

INMARTECH (International Marine Technician Workshop) は, 世界のマリンテクニシャンの知識と経験に関する情報交換と観測・研究機器の取り扱い並びにオペレーション技術の向上のための国際的なワークショップで, 国際船舶運航者会議 (ISOM; International research Ship Operators Meeting) によって創設されました.

詳細並びに申し込み用紙は JAMSTEC ウェブサイト (<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-e/whatsnew/inmartech2002/index.html>) に「Second Circular」が掲載されていますので, ご参照ください.

【問合先】 INMARTECH 2002事務局 E-mail inmartech2002@jamstec.go.jp

● **青色光生物効果IV, 2002年 (The Blue Light Syndrome IV)** が, 12月16日(月)~18日(水)に, 岡崎国立共同研究機構, 基礎生物学研究所, 平成14年度研究会との合同会議として岡崎コンファレンスセンターで開かれます.

本会議は第1回1979年, 第2回1983年, 第3回1996年に Horst Senger 教授により, ドイツのマルブルグ, フィリップス大学にて開催されてきました. 本会議は第4回, 2002年となります. 興味のある方は奮ってご参加下さい.

なおファーストサーキュラー, またセカンドサーキュラーを希望の方は電子メール (bls2002@yokohama-cu.ac.jp) にて請求してください. なおセカンドサーキュラーは6月下旬にホームページに出します.

【問合先】 蓮沼仰嗣 (Kohji Hasunuma) Kihara Institute for Biological Research, Yokohama City University, 641-12 Maioka-cho, Totsuka-ku, Yokohama 244-0813, Japan Phone: +81-45-820-1903 Fax: +81-45-820-1901 E-mail for meeting:bls2002@yokohama-cu.ac.jp

● **国際シンポジウム BIO-LOGGING SCIENCE** が, 2003年3月17日(月)~21日(金)に, 国立極地研究所講堂 (東京都板橋区加賀1-9-10) で開かれます.

国立極地研究所ではマイクロデータロガー等の小型計測機器を用いて海洋生物研究を進めています. この分野の研究は近年急速に発展しており, 多様なセンサーにより, 動物の行動, 生理, 環境等の情報を得ることが可能

になってきました。本シンポジウムでは国内外の研究者による最先端の技術を用いた動物研究の発表を広く募集します。多数の参加をお待ちしています。

【問合せ先】 173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10 国立極地研究所 BIO-LOGGING SCIENCE シンポジウム事務局
TEL 03-3962-4569 FAX 03-3962-5743 ホームページ
<http://www.isc.nipr.ac.jp/~penguin/oogataHP/>
e-mail animal@nipr.ac.jp

公 募

● 2002年度朝日賞候補者の推薦が募集されています。

学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展向上に多大の貢献をした個人または団体を顕彰するものです。締切は8月30日(金)ですが、所属学会への締切については、各自問い合わせてください。

【問合せ先】 104-8011 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社事業本部メセナ・スポーツ部「朝日賞」係 TEL 03-5540-7453 (直通) FAX 03-3541-8999

● 平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞候補者の推薦が募集されています。

沖縄を対象とした自然科学・人文科学・社会科学の研究者(7月15日現在50歳以下の人)の中から将来性豊かな優れた研究を行っている新進研究者(またはグループ)3名以内に、本賞並びに副賞(50万円)が贈られます。応募を希望する人は、学会、研究機関若しくは大学または実績のある研究者から推薦を受け、所定の応募用紙に必要事項を記入し、選考書類として、1)論文や著書などの研究成果物(研究論文3編以内。著書がある場合1冊。)、2)研究成果物の要旨(それぞれA4判横書き1,000字以内)、3)研究業績目録(著書、論文等30点以内)。を添付して、下記へ郵送してください。締切は、9月30日(月)(当日消印有効)です。詳細は下記に問い合わせてください。

【問合せ先】 100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7階 (財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当 石坂次郎 TEL 03-3580-0641 FAX 03-3597-5854
ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~fvgm0090/>
E-mail fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

● 第43回(平成14年度)東レ科学技術賞および東レ科学

技術研究助成の候補者が募集されています。

1. 科学技術賞：学術上の業績が顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明をしてその効果が大きいもの、技術上重要な問題を解決して技術の進歩に大きく貢献したものに對し(2件前後)、1件につき賞状、金メダルおよび賞金(500万円)が贈られます。

2. 科学技術研究助成：基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者(原則として推薦時45才以下)に對し、総額1億3千万円、1件3千万円程度まで10件程度が助成されます。

1,2ともに推薦を希望する人は、所定の用紙に必要事項を記入し、関係学会へ提出してください。財団への締切は10月10日(木)(必着)ですが、詳細は関係学会へ問い合わせてください。

尚、各推薦書用紙は、ホームページ(<http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html>)からもダウンロードできます。

● 2003年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者および研究奨励賞候補者の推薦が募集されています。

1. 猿橋賞：自然科学の分野で顕著な研究業績を納めた女性科学者(下記推薦締切日現在50歳未満の人)に對し(1年1件1名)、賞状と副賞(30万円)が贈られます。応募を希望する人は、所定の用紙に推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度、及び推薦者氏名・肩書きを、下記に送ってください。締切は、11月30日(土)(必着)です。

2. 研究奨励賞：海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者(締切日現在満40歳未満)に對し、1件10万円、年数件が助成されます。応募を希望する人は、所定の用紙に推薦対象者の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等、及び推薦者氏名・肩書きを記入して、下記に送ってください。締切は11月30日(土)と、2003年4月30日(水)の2回です。

【問合せ先】 166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217 女性科学者に明るい未来をの会 TEL&FAX 03-3330-2455

● **第41回（平成14年度）下中科学研究助成金の対象者**が募集されています。

全国小・中・高校の教師（教育センター、盲・聾・養護学校などを含む）を対象とし、広く教育全般に関わる今日の課題を取り上げた研究に対し助成されます。助成金額は1件あたり30万円30件、総額900万円を予定します。締切は12月10日（火）（消印有効）です。

各助成金の詳細は下記に問い合わせてください。

【問合先】 162-0843 東京都新宿区市谷田町2-7 伊東ハイム301号（財）下中記念財団事務局 TEL 03-5261-5688 FAX 03-3266-0352 E-mail t-hiroka@tkg.att.ne.jp

● **平成14年度風戸研究奨励金（研究費助成）の応募者**が募集されています。

電子顕微鏡並びに関連技術の研究および応用研究（医学、生物学、材料学、その他）に携わっている研究者が対象とされます。原則として満40歳以下の若い研究者を対象とし、1件100万円以内で約4名に送られます。応募を希望する人は、所定の申込用紙に必要事項を記入し、最近の主な論文3編の別刷9部（うち8部はコピーで可、写真はオリジナルと同等のもの）、推薦状1通、履歴書1通、業績リスト1通を添えて書留で下記に送ってください。締切は、12月31日（火）（当日消印有効）です。

なお、平成13年度より「風戸奨励賞」を制定しました。本賞は当該年度風戸研究奨励金受賞者のなかで、「応募の研究内容、業績リスト（主要な業績の説明）」をもとに、選考委員会において、これまでの研究が優れた業績に値すると認められ、さらに今後の研究成果が期待できると評価された研究者に「風戸奨励賞」を選考し、賞状を授与します。

【問合先】 196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 日本電子株式会社内（財）風戸研究奨励会 事務局 高橋正行 TEL 042-542-2106 FAX 042-546-3353

● **立教大学理学部生命理学科・大学院理学研究科生命理学専攻で、講師、助教授、教授（いずれか1名）**が公募されています。

任用条件は、生化学分野で独創的な研究を展開する高い業績と指導能力を有する35～50才位の方です。着任時期は、2003年4月1日です。

提出書類（各2部（コピー可））は、（A4判）1）履歴書（写真貼付、書式自由）、2）学術論文目録（原著

論文、総説、その他に分類）、3）主要著書および学術論文別刷（5編程度）、4）現在までの研究の概要と将来の研究・教育に対する抱負（合わせて1,200字以内）です。

応募締切は、8月30日（金）必着です。なお、提出書類はお返しいたしません。

【書類送付および問合先】 171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学理学部生命理学科 牧野 龍 TEL 03-3985-2400 FAX 03-3985-2398 Email rmakino@rikkyo.ac.jp

● **東京農工大学遺伝子実験施設で、助手1名**が公募されています。

本施設は、放射線実験を含む組換えDNA実験に関する教育研究及び安全管理を行い、本学の遺伝子研究の総合的推進を図る学内共同教育研究施設です。本公募では、下記に示す職務に意欲的に取り組まれる方を募集します。なお、着任後は第1種放射線取扱主任者資格の取得が必要となります。

職務内容は、施設の管理・運営や遺伝子操作実験講習を初めとする各種研究支援業務の補助。研究分野の研究。関連学部等の教育への参加です。研究分野は、「有用遺伝子機能開発分野」に所属して、植物病原体等の微生物や動植物の遺伝子産物間の相互作用等についての基礎研究を行い、その知見を応用して耐病性や情報応答、細胞分化等に関連する有用遺伝子を導入した組換え植物の開発です。

応募資格は、応募時点で博士の学位を取得しており、年齢はおおむね30歳代前半までです。

提出書類は、1）履歴書（写真貼付、Eメールアドレス記入）、2）業績目録（原著論文、その他の著述、学会発表等に分類）、3）原著論文その他の別刷（コピー可）、4）これまでの研究経過と着任後の抱負（2000字以内）。なお、選考の過程で応募者の方に来ていただき面接等を実施することがあります（経費は自己負担）。5）応募者の研究、人物について照会できる方2名の氏名と連絡先です。

応募締切は8月30日（金）（必着）です。封筒に「教官応募書類」と朱書し、簡易書留で郵送してください。応募書類は原則として返却いたしません。着任時期は決定後なるべく早い時期となります。

なお、有用遺伝子機能開発分野の専任教官として丹生谷博教授及び松下保彦助教授が研究支援と教育研究（ホ

ホームページ：<http://www.tuat.ac.jp/~idenshi/> を参照)に取り組んでいます。

【書類送付先】 183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1 東京農工大学事務局総務部研究協力第一係

【問合せ先】 東京農工大学遺伝子実験施設専任教員選考委員長 高橋幸資 TEL 042-367-5712, k-taka@cc.tuat.ac.jp).

●**東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻で、助手1名(植物科学大講座所属)**が、公募されています。自薦または他薦で、広く公募いたします。

博士の学位を有し、シロイヌナズナを材料として発生分化過程を分子遺伝学的に研究する研究者。特に突然変異遺伝子のクローン化の経験を有し、遺伝子の発現・機能解析を個体レベルで積極的に行う若手研究者を希望します。提出書類は、(1)履歴書1通、(2)業績論文リスト(原著論文の他に総説などと学会発表の記録を含む)1通、(3)主要論文5編以内の別刷 各1部、(4)現在までの研究概要(2000字以内)1通、(5)今後の研究計画および教育に対する抱負(合わせて2000字以内)1通、(6)推薦書1通(または応募者に関して意見を伺える方2名の氏名と連絡先)です。なお、他薦の場合は、(4)(5)に代えて、(6)推薦書を提出してください。

応募締切は8月31日(土)(消印有効)です。封筒の表に「助手公募」と朱書きし、書留で郵送してください。着任時期は11月1日を予定しています。

【書類送付先】 113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 長田敏行 TEL 03-5841-4457 E-mail nagata@biol.s.u-tokyo.ac.jp

【問合せ先】 米田好文 TEL 03-5841-4454 E-mail komeda-y@biol.s.u-tokyo.ac.jp

●**北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻(生物学)で教授1名**が公募されています。

所属は形態機能学講座で、専門分野は「高等植物を用いた分子レベルの形態機能学」です。当該領域の研究を推進するとともに、大学院生の教育・研究指導、学部の講義と実習、および生物学関連の全学教育科目を担当できる方が望まれます。

提出書類は、1)履歴書、2)研究業績目録(原著論文、著書、そのほかに分類して作成)、3)主要論文別刷(10編以内、研究業績目録に○印)、4)大学院学生の指導歴(学生名と論文題目)、5)研究費取得状況(文部科学

省・学術振興会科学研究費、各省庁・研究助成団体などからの研究費)、6)招待学術講演(名称、場所、年度)、7)学会役員などの活動歴(学会名、役員名、年度)、8)学会賞などの受賞歴(学会名、年度)、9)現在までの研究の概要と着任した場合の研究・教育に対する抱負(3,000字程度)、10)本人に関し参考意見を求める方2名の氏名および連絡先、です。封筒に「教官応募」と朱書きし、書留で郵送してください。応募締切は9月30日(月)(必着)で、着任予定時期は平成15年4月1日です。なお、選考の過程で、応募者の方にはセミナーを行っていただく場合もあります。

形態機能学講座には、現在次の教官が所属しております。山口淳二教授、加藤敦之教授、山岡直人助教授、高田泰弘助教授、高橋卓助手、斉藤玉緒助手。

【書類送付先・問合せ先】 060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻(生物学) 片倉晴雄 TEL 011-706-2751 FAX 011-746-0862 E-mail katakura@sci.hokudai.ac.jp

●**慶應義塾大学商学部生物学教室で助手(嘱託)1名**が公募されています。

主な仕事は、総合教育科目「生物学」における学生実習の指導です。専門分野は問いませんが、文科系学生への生物学教育に理解と熱意がある方を希望します。採用期間は1年間ですが、3年までの契約更新が可能です。着任時期は平成15年4月1日です。応募資格は、着任時に修士以上の学位を持つ35歳以下の方です。提出書類は、1)履歴書(写真貼付)、2)業績リストと論文別刷り(コピー可)、3)これまでの研究概要(A4版1枚程度)、4)文科系学生に対する自然科学教育の抱負(A4版1枚程度)、5)可能であれば、応募者について照会できる2名の方の氏名と連絡先です。応募締切は10月31日(木)(必着)です。封筒に「生物学助手応募書類」と朱書きし、書留で送付してください。

【書類送付先】 108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学商学部長

【問合せ先】 223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学生物学教室 根岸寿美子 TEL/FAX 045-566-1341 E-mail negishi@fbc.keio.ac.jp

●**(財)とうきゅう環境浄化財団による公募**がありましたことは既にお知らせしましたが[359]、次の方々が受賞しました。

平成14年度首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究，応用研究，環境改善計画のための研究助成：（学術研究）横浜国大教育人間科学・西栄二郎，明治大農・倉本 宣

書 評

したたかな植物たち 多田多恵子著，株式会社エスシーシー発行，2002年，238ページ，2,200円（本体価格）

195ページの本文には写真が約300枚。どのページにもカラーイラストや写真が必ず使われている。時々出てくる説明的なイラストは，やわらかなタッチながらもポイントを押さえて分かりやすく描かれている。また，登場人物（？）である植物や虫にしゃべらせたマンガ的イラストは，時には本文以上に理解しやすく印象に残る。多田多恵子著「したたかな植物たち」は，植物の生き様を，豊富なカラー写真（数枚含まれているピンボケ写真は非常に残念！）やイラストと，軽妙な文体で綴った魅力的な本である。本文は全部で26章。1章ごとに話題の中心となる植物の形や，生活の様子を紹介しているのだが，それらの植物を野外で興味津々に見つめる（あるいは覗き見る？）著者の姿がよく伝わってくる。植物の名前の由来や，その植物を使った遊びにも触れ，読者に興味を持たせる工夫を随所にちりばめている。そして，様々な植物の不思議な姿や生き様が，どんな意味を持つのか，あるいは，どのようにして進化してきたのかについて専門知識を紹介する。親しみやすい前説で植物の世界に引き込まれた読者は，ほとんど違和感を感じることなく，「赤の女王仮説」や「ランナウェイ効果」といった専門知識のさわりを理解できるだろう。「したたかな植物たち」は最近の研究成果も紹介しつつ，植物の生き様をビジュアルにユーモラスに紹介した素敵な本である。植物を好きな人すべてに勧めたい。これから植物にはまってみようという方にも，お勧めできる一冊である。

（東京大学大学院理学系研究科 梶田 忠）

山と雲と蕃人と 一台湾山岳紀行一 鹿野忠雄著，文遊社，2002年，438ページ，3500円（本体価格）

本書は，昭和16年に出版された「山と雲と蕃人と」の復刻である。目にすることの難しかった本書が，すばらしい解説文や写真を加味されてよみがえったことを喜ぶたい。

鹿野忠雄とはいかなる人物であったのだろうか。台北

高等学校時代から昆虫学を中心に活躍を始め，生物学者や地質学者であると同時に民族学者でもあった。新ウォレス線が台湾島と紅頭嶼（現，蘭嶼）の間にあることや，台湾に氷河地形が残っていることなどを発見している。また，本書からもその一端がうかがえるように，昆虫のみならず様々な動植物に関しても造詣が深かった。鹿野は学問の範疇というものを越えた，非常に稀有で純粋なナチュラリストであった。

本書の舞台は戦前の台湾である。数々の勇猛な山地民族が跋扈するなかでの危険と隣り合わせであったが，今なお豊かな自然がまだ太古のまま息づいていた時代でもあった。危険を顧みず，彼をその地へ駆り立てたものは一体何だったのであろうか。彼の未開の地に対する情熱，好奇心や豊かな感受性は，一体どのようにして育まれたのだろうか。格調高い文章は今なお新鮮であり，あふれんばかりの好奇心には心を揺さぶられる。私は，台湾の壮大で神々しいばかりの山塊を目にすると，70年以上非常にうにっこうかなる人物だったのであろうか。台北高校しるそれらも前に活躍した鹿野の姿を想像の中で追ってやまない。

彼はその力を存分に発揮する前に終戦とともに消息を絶ったが，数少ない著作の一つが本書である。フィールドワークを志す生物学者や未開の領域に挑もうとする研究者には，是非とも読んでいただきたい一冊である。

（東北大学大学院理学研究科生物学専攻 松村俊一）

The Plant Life of China Chapman, G. P. and Wang, Y. Z., Springer-Verlag, 2002年 XIV, 256ページ 11,560円

中国は面積でも日本の16倍あり，亜寒帯から熱帯，湿润地から砂漠や高山荒原にいたる多様な気候がみられる。これに地形や土壌など小地域的な変化が加わり，世界でも有数な植物相の多様さを発展させている。その一部には日本のそれに類似性の高い植生，日本に関連の深い植物相をもつ地域があり，中国は単なる隣国というより日本の植生・植物相を研究するうえできわめて重要な位置を占めている国といえる。

さて，本書は中国の植物，なかでも多様性，植物相，分布，資源性，保全などの環境問題に関心をもつ読者に，基礎的な情報を提供しようとするものである。全体は4部からなり，第1部は，序論にあたるもので，4章からなり，1章は中国での植物科学を孔子やそれ以前の時代に遡り，本草書に言及し，今日までを簡素に記述する。

続いて、景観と気候、植物の自然分布についての2章があり、4章で栽培化から西洋からのプラント・ハンターによる資源植物の探査を概略する。

第2部は Growth forms: some representative taxa と題し、高木、低木・藤本、草本、高山植物、葉草の順に、それぞれを代表する植物を上げ、特徴や関連する事項が記述される。多くの植物がカラー写真で紹介されている。第3部は Some major genera と題し、ツバキ属、イチゲ属・サクラソウ属、ツツジ属、バラ属が取り上げられ紹介される。第4部は保全とその環境についてで、多様性の概要がその研究史とともに紹介され、絶滅が危惧される植物の実際が紹介され、保全の方策などにも紹介が及ぶ。さらに、『救荒本草』（1406年刊）から飢饉の際の食用となる植物の一覧、中国の植物園・樹木園の一覧、中国の王朝年代を示した付録が添えられている。

著者が本書を出版した意図は、世界の植物科学ですます重要性を増す中国の植物やその原産地、中国について、西洋の人々があまりにも無知であることに起因する。本書は、いま何が必要か、という要望を的確につかみ、それに応えるかたちで編まれたものである。だから本書は、体系的に概論を示すというこの種の本によくあるスタイルを取っていない。私たちは、漢字もある程度理解でき、西洋よりは中国についての理解には深いものがあると、自負しがちだが、本書を通覧して、知らない情報も多いことに気づくことであろう。中国や東アジアの植物に関心をもつ読者には役に立つ一書といってよいと思う。

(国立科学博物館・植物研究部 秋山 忍)

寄贈図書の書評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。希望者は編集委員会まで葉書、FAX または E メールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領をお送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたにお願いするかは編集委員会にご一任願います。尚、出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評、および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。

Iranian Entomology (2-vols. Set) Vol. 1-Faunal

Studies/ Vol. 2- Applied Entomology Cyrus Abivardi 著 1033頁 (Vol.1~2) 2001年 Springer-Verlag 24,730円 (本体価格・以下同) / 日本コウモリ研究誌 翼手類の自然史 前田喜四雄著 203頁 2001年 東京大学出版会 3,700円 / ポピュラーサイエンス199 広域大気汚染 ―そのメカニズムから植物への影響まで― 若松伸司、篠崎光夫共著 226頁 2001年 裳華房 1,600円 / 先端バイオの先を読む ―トップサイエンティストたちの知的格闘― 大石道夫・中村祐輔・勝木元也・中西重忠・本庶 佑・鍋島陽一・C. Cantor・岡田清孝・小原雄治・宮田 満・服部恵子著 173頁 2001年 共立出版 1,400円 / X-ファイルに潜むサイエンス- ミュータント, ウイルス, エイリアンの実像 アン・サイモン著 中村雅美監修 熊井ひろ美訳 484頁 2002年 文一総合出版 2,400円 / Air Pollution and Plant Biotechnology - Prospects for Phytomonitoring and Phytoremediation K. Omasa・H. Saji・S. Yoassefian・N. Kondo Eds. 455頁 2002年 Springer-Verlag Tokyo / 多様性からみた 生物学 岩槻邦男著 136頁 2002年 裳華房 2,300円 / 里山の生態学―その成り立ちと保全のあり方― 広木詔三編 333頁 2002年 名古屋大学出版会 3,800円 / 生物講義―大学生のための生命理学入門― 岩槻邦男著 176頁 2002年 裳華房 2,000円 / 雑草の成功戦略―逆境を生きぬく知恵― 稲垣栄洋著 207頁 2002年 NTT 出版 1,500円 / 植物が未来を拓く 植物が未来を拓く編集委員会 駒嶺 穆編 240頁 2002年 共立出版 1,800円 / ポピュラー・サイエンス243 動物たちの気になる行動 (1) ―食う・住む・生きる篇― 上田恵介・佐倉 統監修 198頁 2002年 裳華房 1,600円 / ポピュラー・サイエンス244 動物たちの気になる行動 (2) ―恋愛・コミュニケーション篇― 上田恵介・佐倉 統監修 192頁 2002年 裳華房 1,600円 / 科学史こぼれ話 佐藤満彦著 154頁 2002年 恒星社厚生閣 2,000円 / Biological Rhythms Vinod Kumar 著 254頁 2002年 Springer-Verlag 17,790円 (2002年6月現在)

【連絡先】 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-5352 E-mail pdp@sakura.cc.tsukuba.ac.jp, naruse@biol.s.u-tokyo.ac.jp

生物科学ニュース編集委員会